

農業技術情報

令和5年9月1日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター
 十勝東部支所 015-572-3128
 JA十勝池田町 572-3131
 高島支所 573-2111
 池田町産業振興課 572-3118

農作物の生育・作業の状況（池田町 9月1日）（ ）内は平年値、

作物名	遅速日数	生育状況		農作業状況
ばれいしょ	+2	いも数 13.6 (10.2)個 1個重 81.5 (88.9)g	澱粉価 11.2 (12.8)	収穫始 8/19(8/28)
大豆	+12	茎長 84.9 (73.1)cm 葉数 10.4 (9.7)枚	着莢数 莢/m ² 560.6(506.9)	
小豆	+11	茎長 62.6 (54.8)cm 葉数 12.1 (10.1)枚	着莢数 莢/m ² 330.0(261.4)	
菜豆（金時）	+12	茎長 57.3 (47.6)cm 葉数 4.1 (4.1)枚	着莢数 莢/m ² 192.9(125.8)	収穫始 8/21(9/5) 収穫期 8/25(9/14)
菜豆（手亡）	+12	茎長 55.5 (52.5)cm 葉数 7.6 (7.4)枚	着莢数 莢/m ² 320.0(201.4)	収穫始 8/26(9/11)
てん菜（移植）	-	根周 36.9(36.0)cm		
てん菜（直播）	+1	根周 31.3(31.2)cm		
牧草	+1	草丈 87.6 (87.1)cm		収穫始 8/25 (8/25)
サイレージ用 とうもろこし	+16	稈長 290.0(284.5)cm	糊熟期 8/22(9/5) 黄熟期 9/1(9/17)	収穫始 8/31 (9/16)
たまねぎ	+4			収穫始 8/19(8/25)

1 小麦

1) は種と施肥量

①は種時期

越冬前の葉数は5葉を目標に、4～6葉が確保できる時期が「は種時期」です。越冬前に適正な生育量を確保するため、適期は種を心がけてください。

②は種量

小麦種子の発芽率が90%の場合、適期は種で140～180粒/m²とし、は種時期の早晚により、は種粒数を増減します。

本年の種子は千粒重が重いので、設定に注意してください。

表1 は種時期別のは種量例（池田アメダス過去10年平均気温から積算気温を算出）

は種時期		早期	適期	晩期
		9/16～20	9/21～25	9/26～9/29
は種粒数(粒/m ²)		120～140	140～180	～255
は種量 (kg/10a)	土幌・足寄産 千粒重42.9・42.6g	5.7～6.6	6.6～8.6	～12.1
	更別産 千粒重38.0g	5.1～5.9	5.9～7.6	～10.8

※は種量例は千粒重を42.9g、発芽率90%として算出しています。

下記に計算例に実際の種子の粒重を当てはめて、は種量を計算しましょう。

＜は種量の計算例＞

以下は、千粒重42.6gの種子を160粒は種する場合です

$$\text{式} \quad \text{【千粒重 (g)} \times \text{は種粒数 (粒/m}^2\text{)} \div 1000 = \text{【は種量 (kg/10a)} \text{】}$$

$$42.6\text{g} \quad \times \quad 160 \text{ (粒/m}^2\text{)} \quad \div 1000$$

↓

$$0.0426\text{kg} \quad \times \quad 160000 \text{ (粒/10a)} \div 1000 = 6.816(\text{kg/10a})$$

$$\text{出芽率90\%の場合} \quad 6.816 \div 0.9 = 7.573(\text{kg/10a})$$

※上記のは種粒数は出芽率90%の場合です。出芽率が低いほ場では1割程度増します。

③は種深度

は種が深すぎると二段根、出芽ムラで初期生育が劣ります。均一な出芽と良好な初期生育を確保するために

- a 砕土を細かくしすぎない
- b は種前に鎮圧する等の処理を行い、は種深度は2～3cmとする。

浅まきの場合、出芽は早くなりますが根張りが悪くなり、その後の生育に影響してきます。また、深まきした場合は出芽が遅れ、越冬前の生育量が足りずに雪腐病発症の危険があるため、適正なは種深度を守りましょう。

④施肥量

リン酸、カリ、苦土は全量基肥として施用しましょう。窒素は越冬前に小麦が吸収する量は4 kg/10a 程度です。

過剰な窒素施用はコストが無駄になるほか、越冬後の茎数コントロールが困難になります。また、土壤凍結が浅い年では下層に流亡して地下水・河川汚染の原因となりますので、適正な施肥を行いましょう。

表2 は種時の施肥量 (kg/10a) (北海道施肥ガイド 2020 より)

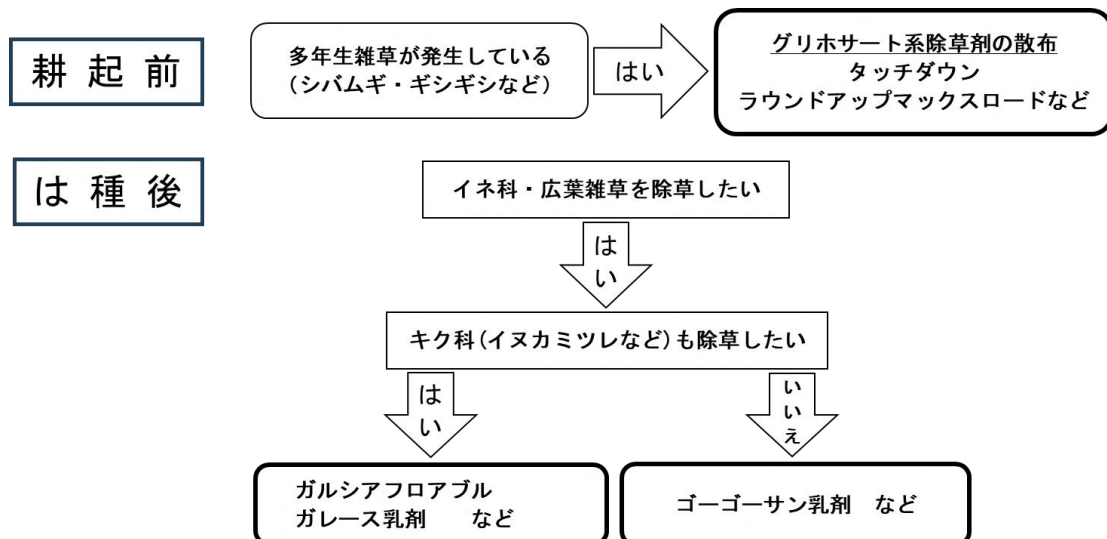
土壌型	低地土	泥炭土	火山性土	台地土
窒素	4	4	4	4
リン酸	12	14	15	14
カリ	9	10	10	9
苦土	3	4	4	4

【基肥施肥例：「BB850」×50kg/10a (窒素-リン酸-カリ-苦土=4-12.5-5-2.5kg/10a)】

⑤雑草対策

次年度産秋まき小麦のは種前後の除草は、優占雑草種に応じた除草剤を選択してください。雑草が小麦に与える害としては「養水分の収奪」「病害虫繁殖の助長」などがあり、結果的に収量、品質の低下に繋がります。除草剤を適正に使用し、雑草対策を行ってください。

<雑草の種類に応じた除草体系例>



★秋まき小麦ほ場のイネ科雑草は越冬後に対処できません。必ず秋処理を行って下さい。

⑥は種前準備

高収量・高品質の小麦づくりは適期適正は種からスタートします！

根張りが良く強い株を作るために、土壌が加湿の時は、は種床準備は避けましょう。

また、道内各地で様々な種子伝染性病害や土壌病害の発生が拡大しています。

リスクを最小限にするために土の移動に注意し、自家種子の使用は避けましょう。

排水、土壌改良、銅欠乏対策

- ・透排水性の劣るほ場では、心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。
- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5 以下の場合は5.8 を目標に酸度矯正をしましょう。
- ・銅欠乏症状の出やすい土壌（腐植の多い火山性土等）には、銅の補給が必要です（Cu 入り肥料等や堆肥の施用）。ただし、銅は微量元素で過剰障害も生じやすいので、土壌診断の基準値に基づき、適正量の肥料を施用しましょう

2 ばれいしょ

収穫は平年より早く進んでいます。

(1) 収穫作業

ア 収穫作業は茎葉枯凋から、2～3週間後をめどに、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。

イ 収穫が遅れると、黒あざ病による腐敗、緑化、品質の低下が懸念されます。

ウ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。

エ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などができないよう注意しましょう。

オ 本年は高温による損傷が発生しています。極端に暑い時間帯での収穫を避ける、上部にシートをかける等で対策しましょう。

3 豆 類

豆類は全般的に生育が進んでいます。

(1) 菜豆類の収穫

本年の成熟期は平年より早い見込みです。収穫準備も早めに行いましょう。ほ場毎の登熟状況と天候を見ながら、収穫方法に応じて適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

収穫が早すぎると、へこみ・つぶれ粒が発生しやすくなり、収穫が遅れると色流れ粒、裂皮、割れ粒が発生しやすくなります。収穫時には収穫機械、脱穀機の調整を確認するようにしましょう。

○ピックアップ収穫

- ・収穫・脱穀適期：完熟期（熟莢率ほぼ100%）から6日以内
- ・作業速度：0.7m/s以下
- ・倒伏程度によらず収穫が可能（ビーンハーベスタまたはビーンカタ）

○ダイレクト収穫

- ・収穫・脱穀適期：完熟期（熟莢率ほぼ100%）から6日以内
- ・作業速度：0.6～0.8m/s（総重量700g/m²以上では0.6m/s未満）
- ・倒伏が見られるほ場では、作業機の速度は0.5m/sで収穫してください。倒伏がひどいほ場では追い刈り収穫を行ってください。

(2) 白系菜豆（手亡・福白金時）の汚粒・損傷について

手亡類は完熟期で子実水分が25%程度まで低下しますが、金時類と比べそれ以降の水分の減りが遅いため注意が必要です。汚粒や損傷を避けるために、以下のことに注意しましょう。

- ・完熟期にすぐ収穫できない場合、島立て・にお積みを含めた作業体制を検討する。
- ・降雨直後や高水分での収穫は避ける。（手亡類は子実水分20%以下（完熟期から1週間以降）で収穫可能）
- ・収穫前に雑草の抜き取りを行う。
- ・過乾燥・葉落ちの悪い豆は、スレッシャの脱穀スピードを抑える。

(3) 小豆の収穫

収穫適期の目安は「熟莢率」で判断し、未熟粒、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表4 小豆の収穫適期の目安（H14・H16 中央農試 H9 十勝農試）

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率80%、子実水分25%程度
ダイレクト収穫	完熟期（熟莢率100% 子実水分16～18%）から2週間以内	①汎用コンバイン（4条）～熟莢率90%、 子実水分25%程度 ②豆用コンバイン（2条）～熟莢率80%、 子実水分25%程度

野 菜

〈ながいも〉

(1) 強風によるつる切れ防止対策

茎葉量が最も多い時期です。強風等による「つる切れ」防止のため、支柱の補強やネットのたるみの点検・補強を行ってください。

(2) トレンチャー溝の陥没

ほ場の陥没は滞水や奇形いも発生の原因となります。地上部の陥没が見られなくても、水の流れ等で内部に地下に空洞が発生する場合があります。特に入り口付近に陥没が見られた際は早期に通路の土で埋め戻すようにしてください。

〈たまねぎ〉

(1) 収穫にあたっての留意点

- ・腐敗球や肌腐れ、抽苔等の障害球は混入防止のため、収穫前に除去する。
- ・泥の付着やシミの発生等による外観品質の低下を防ぐため、茎葉が枯葉したら速やかに収穫を行う。
- ・収穫作業は朝露が乾いてから行う。
- ・タッピングは首部が十分乾燥してから行う。
- ・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所で風乾する。

(2) 来年の苗床作り

- ・苗床に緑肥えん麦をは種した場合は、出穂始までにすき込んでください。
- ・十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。
- ・土壌混和後は必ず土壌診断を実施し、分析値に基づいた適正施肥に努めてください。

〈にんにく〉

(1) 植え付け前の種子消毒

チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病対策として必要に応じた種子消毒を実施してください。

表1 植え付け前の種子消毒薬剤例

時期	薬 剤 名	対象病害	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
種子消毒	ガードホープ液剤	チューリップサビダニ	500	植付前	1回以内 (種子消毒)
	ベンレートT水和剤20 (種球湿粉衣)	黒腐菌核病 イモグサレセンチュウ	種球重量の0.5～1% 種球重量の1%	植付前	1回以内

○種子消毒例

ガードホープ液剤(500倍)30分浸漬

↓陰干風乾

ベンレートT水和剤20(種子重量の1%)湿粉衣

↓日陰干し(1～2日)

植え付け